

1. 福島市脱炭素社会実現実行計画の改定について(概要)

～福島市は2050年ゼロカーボン実現に向けた取組を強化します～

- 1 野心的な目標(2030年55%削減)を掲げ、県都として脱炭素をリードします。(計画改定前倒し)
- 2 「市民・事業者・行政」の役割を明確にし、各部門における積極的な取組を促します。
- 3 市民の取組を後押しし、持続可能な未来を将来世代に引き継ぎます。

1 2030年度の温室効果ガスの削減目標(2013年度比)

・福島市 30%以上 → **55%削減**
 (参考)国46%、県50%

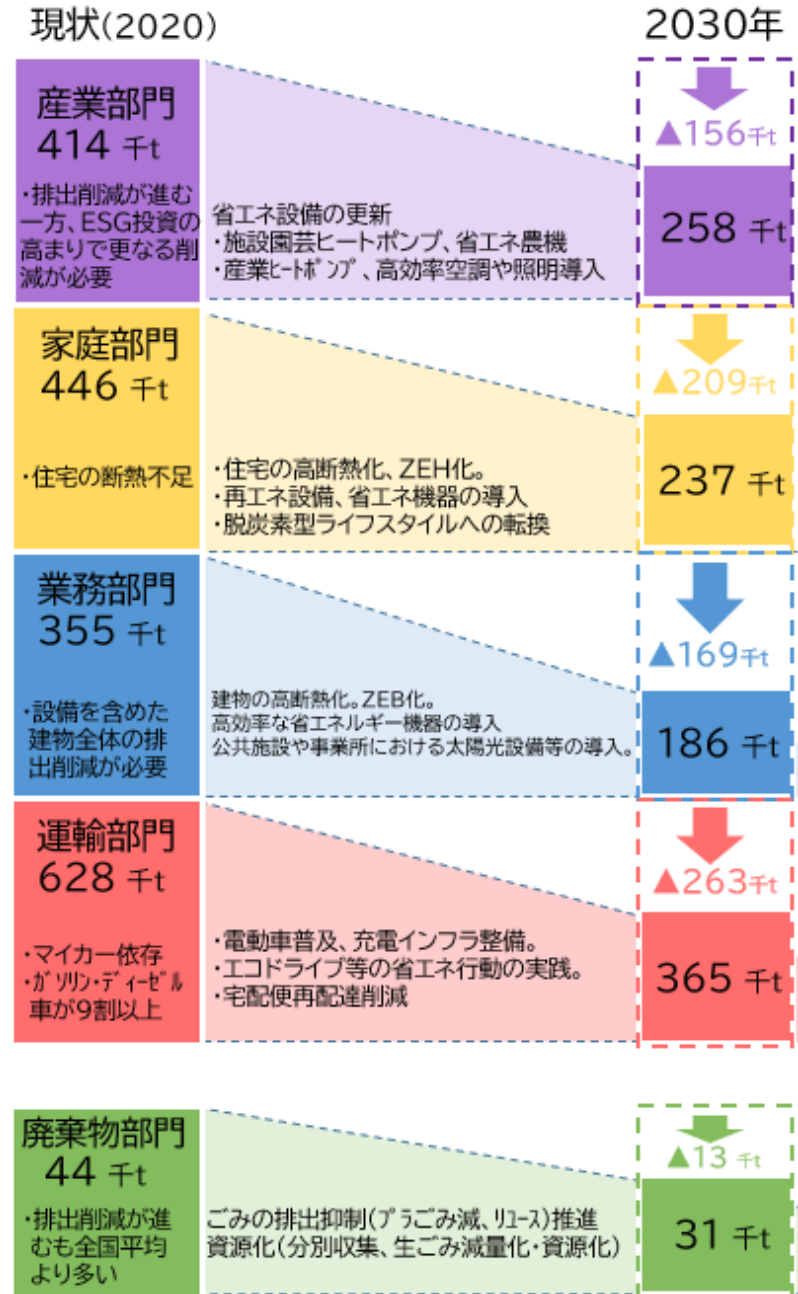
2 部門ごとの削減目標を設定

※BAU推計:Business As Usual
 今後追加的な対策を見込まない場合(人口減少反映)

部門	基準年度 (2013) 排出量 (a)	2020年 排出量	2030年目標 排出量(b)	2030年					基準年度比 削減率 (%)
				削減量(c) a-b	BAU分 (現状趨勢)	追加対策分 (排出係数改善含む)			
						排出係数改善	追加対策分		
産業	610	414	258	352	250	102	17	85	58%
家庭	578	446	237	341	177	164	26	138	59%
業務	608	355	186	422	346	76	19	57	69%
運輸	525	628	365	160	38	122	0	122	31%
廃棄物	51	44	31	20	12	8	0	8	39%
その他ガス(農業)	19	14	8	11	10	1	0	1	58%
計	2,391	1,901	1,085	1,306	833	473	62	411	54.6%

※森林の吸収0.4%

家庭、運輸の取組強化



3 脱炭素に向けたシナリオ

- ・家庭
 - ① **住宅の高断熱化** → 国・県補助メニュー活用促進
 - ② **市民の行動変容** → 脱炭素生活スタイル促進事業 + 環境ポータルサイト
- ・運輸
 - ① **電動車(EV,FCV,HV等)化** → 住宅用EV充電器補助 + FCV補助
 - ② **エコドライブ100%** → 全てのドライバーによる徹底
- ・廃棄物 **プラごみ削減の徹底** → プラ容器は洗浄しリサイクルへ

2. 各部門の排出内容に応じた施策・取組

本市の排出量
 基準値 2013年 2,391
 実績値 2020年 1,901
 目標値 2030年 1,085

54.6%減 + 森林の吸収0.4%

55%の削減

(単位:千t-CO2)

特に **②家庭部門** と **④運輸部門** への **対策が必要**

①産業部門(22%)

基準値 2013年 610

直近値 2020年 414 ▲32%

(内訳)
 ①製造業(362)
 ②建設・農業(52)

【考察】
 約9割が製造業。特にボイラーからの排出が多い。
 <参考>
 ・市内のばい煙施設数は444件
 ※うちボイラーが412件
 森永乳業、キャノンなど

BAU及び排出係数改善 ▲71
 追加対策 ▲85

(内訳)
 ①産業用ヒートポンプ導入 ▲39
 ・空調用途 0→60%
 ②LED照明・高効率空調・モーター等の導入 ▲8
 ・LED化 100%ほか
 ③FEMS導入 ▲7
 ・導入率20%
 ④高効率ボイラー、燃料転換等▲16
 ・太陽光自家消費利用4→20%
 ・再エネ電力調達ほか
 ⑥農業・建設業の設備導入 ▲3
 ・施設園芸ヒートポンプ2→28件
 ・省エネ農機、省エネ建機

目標値 2030年 258

②家庭部門(23%)

基準値 2013年 578

直近値 2020年 446 ▲23%

(内訳)
 ①照明・家電(165)
 ②暖房(161)
 ③給湯(107)
 ④その他(13)

【考察】
 照明・家電のうち、冷蔵庫、照明、液晶テレビ、エアコンが多い。建物の断熱化が効果大。

BAU及び排出係数改善 ▲71
 追加対策 ▲138

(内訳)
 ①省エネ家電等 ▲23
 ・エコキュート導入25→50% ▲13
 ・LED照明 56→100% ▲1
 ・冷蔵庫更新 3件中2件 ▲9
 ②ZEH普及 ▲28
 ・0→7千件(年1千件)
 ③住宅断熱改修 ▲61
 ・断熱リフォーム12→50% ▲46
 ・窓枠ペアガラス 17→70% ▲15
 ④太陽光発電 ▲18
 ・住宅屋根 11→30%
 ⑤市民行動変容 ▲8
 ・節水 49→80%▲4
 ・ポータルサイト活用ほか▲4

目標値 2030年 237

③業務部門(19%)

基準値 2013年 608

直近値 2020年 355 ▲42%

(内訳)
 ①照明・家電(220)
 ②暖房(82)
 ③給湯(36)
 ④その他(17)

【考察】
 「事務所・ビル」、「ホテル・旅館」からの空調・照明・給湯によるエネルギー消費量が多い。電力7割、ガス2割、他1割。

BAU及び排出係数改善 ▲112
 追加対策 ▲57

(内訳)
 ①省エネ設備導入▲32
 ・照明 17→40% ▲19
 ・空調、給湯、燃熱ほか ▲13
 ②省エネ診断・BEMS等 ▲10
 ・BEMS導入
 ③建物高断熱化、ZEB▲4
 ④再エネ導入 ▲3
 ・太陽光自家消費利用 4→20%
 ・再エネ電力調達ほか
 ⑤行動変容 ▲3
 ・クール・ウォーム・ビズ 64→90%
 ・その他
 ⑥公共施設関係 ▲5
 ・避難所等への太陽光設置(PPA)
 ・新築建物のZEB化
 ・照明LED化 ▲3
 (本庁舎・教育施設等)

目標値 2030年 186

④運輸部門(33%)

基準値 2013年 525

直近値 2020年 628 +20%

(内訳)
 ①旅客用自動車(357)
 ②貨物車(254)
 ③鉄道(17)

【考察】
 97%が自動車由来。その内6割が乗用車とバス。電動車化と充電設備の普及。

BAU ▲141
 追加対策 ▲122

(内訳)
 ①電動車普及 ▲67
 ・EV,FCV,PHEV,HV
 4万(19%)→15万台(70%)
 ・充電インフラ整備(急速・普通)
 ・公用車EV化
 ②エコドライブ実施 ▲11
 ・エコドライブ実施45→100%
 ・燃費改善
 ③テレワーク実施 ▲17
 ・18→40%
 ④スマートムーブ促進等 ▲27
 ・行動変容(エコ通勤、カーシェア、宅配便1回ほか)
 ・道路整備(LED化、歩道整備)
 ・トラック輸送効率化
 ・鉄道事業者の再エネ電力切り替え

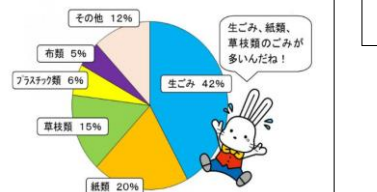
目標値 2030年 365

⑤廃棄物部門(2%)

基準値 2013年 51

直近値 2020年 44 ▲14%

(内訳)
 ①一般廃棄物(42)
 ②排水処理(2)



【考察】
 生ごみ、紙類、草屑類のごみが多いんだね!

BAU ▲2
 追加対策 ▲8

(内訳)
 ①ごみの削減 ▲5
 ・分別・3Rによるプラスチック減
 ・バイオマスプラスチックの利用
 ②食品ロス削減 ▲1
 ・フードドライブ普及
 ・買いすぎ防止
 ③その他 ▲2
 ・剪定枝等バイオ活用

目標値 2030年 31

⑥その他ガス(農業)(0.7%)

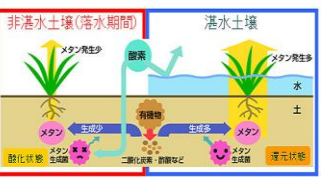
基準値 2013年 19

直近値 2020年 14 ▲21%

(内訳)
 ①メタン(9)
 ②一酸化二窒素(5)

BAU ▲6
 追加対策 ▲1

(内訳)
 ①水田由来メタン、一酸化二窒素の削減 ▲1
 ・中干期間延長
 ・メタン低減水稲品種の選抜、開発
 ②一酸化二窒素削減
 ・硝化抑制剤利用
 ・新規薬剤開発
 ・一酸化二窒素を無害化する土着根粒菌利用



目標値 2030年 8